

特別特集

二 年を記念して  
BBエがお届けする「歴史に名を残した、  
または名を残すであろうトルコ人」第二弾！

一千年の

トルコ人

《第一部／文学・芸術》



彼らがいたから、現在のトルコがあると言っても過言ではない。  
二 年を迎えた今日。過ぎ去った一 年の歴史に残る、  
偉大なトルコ人の記録を辿って見よう。  
さて、貴方は何人知っているだろうか？

文/小沢佳子 編集/BBT編集部 (1999.12.26)トルコエッセイ集「トルコ」(新編)掲載記事参照

# 文学に見られる トルコ人の文化と心

## 文学

### トルコ古典文学の巨匠

YUNUS EMRE

ユヌス・エムレ(一四世紀)

詩の中で、アナトリアの人々の存在定義にアプローチし、そのおらかな飾り気の無さを表現した賢明な思想家。彼はアナトリアのトルコ人同化政策初期を生きて、その名を永遠に残した。

AHMET VELIYUDDIN PAŞA

アフメット・ベリユッディン・パシャ

(一四九六)

トルコ宮殿文学を確立させたオスマン

帝国の政府の詩人。ファティフ・スルタン・メフメットの大臣であった彼は、当時までイラン文学の強い影響下にあった宮殿詩に、トルコスタイルを築いた。

Ali Şir Nevai

アリ・シル・ネバイ(一四四一〜一五一)

東トルコの有名な文学者、詩人、政府役人。スルタン・フセイン・バイカラの大臣でもあった。彼は四つの政権の中で筆を取り、トルコ語の文語としての重要さを、初めて提唱した人物とされている。「Muhakemetü'l-Lugatein」という作品は、現在もトルコ語の源点とされている。

古典詩の不变の象徴

BAKI BAKI (一五二六〜一六一)

オスマン帝国黄金時代のトップ詩人。

宮殿詩といえば、必ず彼のいくつかの節が挙げられる。彼は、トルコの詩の世界で何百年も不動の地位にいる。

トルコの近代作家

SINASI スイナシ

(一八二六〜一八七二)

彼は、その著書によって、改新家としてヨーロッパへの扉を開いた。言語の純粋性を守りぬき、ジャーナリズム、詩、小説によって、西洋思想にある自由観念の獲得に挑戦した。彼は、後世代まで、多くの人々に影響を与えた。

NAMIK KEMAL

ナムク・ケマル

(一八四一〜一八八八)

その詩と同様に、国家詩人としての名声は彼自身をも忘れられない人物にした。彼は西洋の自由観念を取り入れる為に、常に全力を尽くし、学校の教科書に欠かさない名となった。

YAHYA KEMAL BEYATLI

ヤヒヤ・ケマル・ベヤトル

(一八八四〜一九五八)

トルコの詩の世界に、新しい道を切り開いた。古い形式の詩を否定せず、東洋、西洋も詩の中につまみ取り入れながら詩を書いた。彼の作品同様に、彼の生き方そのものも前衛的であった。

トルコ共和国国歌

「独立行進曲」の作詞家

MEHMET AKIF ERSOY

メフメット・アキフ・エルソイ

(一八七三〜一九三六)

トルコ共和国国歌である「イステイクルマーチ(独立行進曲)」の作詞家。彼は、その主題を現実生活の中から選び、道徳、宗教、同胞意識、イスラム思想概念の上に基礎を置いて、大衆に分かりやすい言葉で作詞した。

トルコ人女性の象徴

HALIDE EDIP ADIVAR

ハリデ・エディプ・アドゥヴァール

(一八八四〜一九六四)



Halide Edip ADIVAR

彼女は、トルコ女性解放の象徴であり、トルコ文学の選り抜かれた小説家である。作家としてだけではなく、イズミル占領後の一九二三年五月二三日に、スルタンアフメット広場にて行われたプロテスト集会での演説と、独立戦争中の「上等兵ハリデ」の名で良く知られている。

**REŞAT NURİ GÜNTEKİN**  
レシャット・ヌリ・ギンテキン  
(一八八九—一九五六)

彼はその小説の中で、アナトリア地方とトルコ共和国の全地域の人々の人間模様や、官僚主義を、皮肉交じりの文体で批判しながら描いた。有名な小説「ミソサザイ(鳥)」に登場する、理想主義の教師「フェリデ」のキャラクターは、後の世代の作家達の模範となった。

### 最後の大恋愛

**AŞIK VEYSSEL**  
アシク・ベイセル  
(一八九四—一九七三)

彼は、幼い頃から盲目であった。情熱のこもった、流儀に反した詩を書き、当時最もポピュラーな民衆詩人であった。

### 世界の偉大な詩人 ナーズム！

**NAZİM HİKMET**  
ナーズム・ヒクメット  
(一九一—一九六三)

トルコの詩の中にイデオロギーを持ち込んだ、内容と形式双方において偉大な改新家である。その思想、詩、そして彼

### 【トルコ小説の傑作】 En İyi Türk Romanları

- 「禁じられた愛」/ハリット・ズィヤ・ウシャクルギル  
Aşk-ı Memnu / Halit Ziya Uşaklıgil  
「つれづれ男」/ユスフ・アトルガン  
Aylak Adam / Yusuf Atılgan  
「肥沃な土地の上で」/オルハン・ケマル  
Bereketli Topraklar Üzerinde / Orhan Kemal  
「ある結婚式の夜」/アダーレット・アアオウル  
Bir Dügün Gecesi / Adalet Ağaoğlu  
「ミソサザイ」レシャット・ヌリ・ギンテキン  
Çalığışu / Reşat Nuri Güntekin  
「政府の母」/ケマル・タヒル  
Devlet Ana / Kemal Tahir  
「九月」/メフメット・ラウフ  
Eylül / Mehmet Rauf  
「和み」/アフメット・ハムディ・タンブナル  
Huzur / Ahmet Hamdi Tanpınar  
「やせっぽちのメフメッド」/ヤシャル・ケマル  
İnce Memed / Yaşar Kemal  
「黒い本」/オルハン・パムック  
Kara Kitap / Orhan Pamuk  
「案内人か夜か」/ビルゲ・カラス  
Kılavuz ya da Gece / Bilge Karasu  
「親愛なる横柄な死よ」/ラティフェ・テキン  
Sevgili Arsız Ölüm / Latife Tekin  
「ハエのいる乾物屋」  
/ハリデ・エディップ・アドゥヴァール  
Sinekli Bakkal / Halide Edip Adivar  
「暁」/セヴギ・ソイサル  
Şafak / Sevgi Soysal  
「惚れっぽい人」/ヒュセイン・ラフミ・ギュルブナル  
Şipsevdi / Hüseyin Rahmi Gürpınar  
「大鎌」/ファキル・バイクルト  
Tırpan / Fakir Baykurt  
「こらえきれない人達」/オウス・アタイ  
Tutunamayanlar / Oğuz Atay  
「三つのイスタンブル」  
/ミトハット・ジェマル・クンタイ  
Üç İstanbul / Mithat Cemal Kuntay  
「原野」/ヤクブ・カドリ・カラオスマンオウル  
Yaban / Yakup Kadri Karaosmanoğlu

文献：「トルコ小説批判—概念」、「世紀の100小説」



Nazim HİKMET

自身、長い間、トルコ国内では危険思想として禁止されていた。その詩で、その生き方で、その考え方をもち、若者世代に多大な影響を与えた。解放戦争につ

いての著書は、その後重要な手本となった。彼の墓は現在ロシアにあるが、近年この偉大な詩人の墓をトルコに持ち帰ろうという声が上がっている。

**SAİT FAİK ABASİYANIK**  
サイト・ファイク・アバスマヤック  
(一九一—一九五四)

トルコの新しい物語の創作は、彼から始まった。彼は、一般大衆のいろいろな問題や生き方を、卓越した観察力と溢れる愛でもって物語化した。誰もがイスタンブルや、鳥々について、彼の作品から読み知った。町角の焼き栗屋を、海辺の漁師を、彼はその作品で好きにさせた。

### 大衆詩を残した 不可解な詩人

**ORHAN VELİ**  
オルハン・ベリ(一九一四—一九五〇)

「詩に帽子をかぶせた」(詩のレベルを一般大衆に読みやすく、また題材をも一般大衆を中心とする新しい流れ)といわれる「不可解な流れ」においてメリヒ・

## 心に残るあの一節

アティラ イルハン

アフメット・アリフ

知らせはあるかい  
石の壁  
鉄のドア  
盲目の窓  
（「知らせはあるかい」より）

君を表現できたら、君を  
無、それは地獄のまたの名である  
僕は凍えている、目を閉じるな  
（「熱望で足鎖を擦り切らした」より）

オルハン・ヴェリ

イスタンブルに耳を澄ます、  
目を閉じて  
（「イスタンブルに耳を澄ます」より）

片手に毛抜き  
片手に鏡  
君は世界なんておかまいなし！  
（「毛抜きの詩」より）

女を愛したことはない  
もともと女なんて存在しなかった  
（「こんな風に愛すこと」より）

なにはさておき、君を腕に抱くと  
いつも僕の中で大混乱が起こり  
泣いたものだ  
（「第三の私的な詩」より）

君は僕になくってはならないんだよ  
知らないだろうけど  
君の名は  
僕の中に釘でしっかり打ち込んである  
（「君は僕になくってはならない」より）

ナーズム ヒクメット

生きることは一本の木のように  
かけがえがなく、自由だ  
そして森のように友好的だ  
（「招待」より）

僕が燃えなければ  
君が燃えなければ  
どうやって抜け出るっていうのが  
暗闇から明るい世界へ  
（「空気は鉛のように重く」より）

ジャーヒト・ストゥック・タランジュ

三五歳！  
道の半分に値する  
ダンテのように  
私達は人生の真ん中にいる  
（「三五歳」より）

アシュク・ベイセル

長く細い道にいる  
僕は行く  
昼間も夜も  
（「長く細い道にいる」より）

アフメット・ハシム

ゆっくりと登ってゆくださう  
この階段を  
スカートに太陽色の葉を積んで  
そしてふと空を見上げるだろう  
泣きながら  
（「階段」より）

ジェブダットとオクタイ・ルファットと共に活躍した文学者。イスタンブルのあてのない根無し草生活、愛、一般大衆を題材とした詩人。彼にとっては、もともと人生そのものが詩なのであった。若くして他界したことは、彼を文学史上の最も「不可解な」詩人として、後世に名を残す結果となった。

**FAZIL HÜSNÜ DAĞLARCA**

ファズル・ヒュスニユ・ダーラルジャ

（一九一四〜）

詩人であることは、彼にとって努力して手に入れた才能ではなく、生まれた時から与えられた一つの才能なのであった。彼は、処女作「宙に描かれた世界」で大詩人として認められた。解放戦争から韓国へと、幅広いテーマと想像力に富んだ空想の世界により、文学界の最も想像力のある詩人とされている。

**BEHÇET NECATİGİL**

ベフチエット・ネジャティギル

（一九一六〜一九七九）

彼の詩は、広さではなく、深さを増す一本の川のようにある。彼は、調和のとれた詩の世界を創造し、家庭、告白されなかった愛、世界の情勢などをテーマに、巧みな腕で詩を創作した。ラジオ演劇では、世界文学の大切な名作をトルコ語に翻訳し、市民にこの種の文学を好きにさせるき

っかけを作った。

**現代トルコ文学界の巨匠**

**YAŞAR KEMAL**

ヤシャル・ケマル（一九三二）

彼は、トルコ文学、世界文学の「ホメロス」といわれ、紛れもない今世紀を代表する大作家。叙事詩や、民衆小話を元に生み出した小説の世界、築き上げた彼独自の文体によって、世界レベルで知られるようになったトルコの作家。

**BİLGE KARASU**

ビルゲ・カラス（一九三〇〜一九九五）

近代トルコ文学の師匠の一人。その題材、そして精神の精密描写における凄腕で、トルコ文学に独自の方法を生み出し、確立させた。

**ポストモダンな**

**若手作家**

**ORHAN PAMUK**

オルハン・パムック（一九五二〜）



Orhan PAMUK

彼は、トルコの小説家の中で、一年に一度現われる作家と評価され現在最も拝読され、最も話題に取り上げられている若手作家である。彼の作品は、ポストモダン概念の小説の最も代表的なものとされ、その小説の数々は、多くの外国語に訳されている。

## 建築

オスマン朝トルコが誇る  
世界の建築家スィナン

MIMAR SINAN

ミマル・スィナン

(一四八九〜一五八八)

トルコ建築史に一つの印を残した、伝説の宮殿建築家。今日では、ただトルコだけではなく、世界的に数え上げられる偉大な建築家の一人とされている。現在も、彼を乗り越える人物はまだ現われていない。彼の代表的な建築物には、イスタンブルのスレイマニエ・モスク、エディルネのセリミエ・モスク等がある。

## 絵画・漫画

トルコの画家達

CEMIL CEM

ジェミル・ジェム(一八八二〜一九五〇)

トルコ漫画、風刺画の名手。政治風刺の鉄人。一九一一年、「カレム(筆)・マ

ガジン」が廃刊になってからも、「ジェム・マガジン」を出版した。当時の政治家達は、ジェミル・ジェムによって巧みに表現され、そして容赦のない風刺によってかなり辛辣に批判された。

CEMAL NADIR GÜLER

ジェマル・ナーディル・ギュレル

(一九一七〜一九四七)

忘れられない漫画のキャラクター「アムジャベイ(伯父さん)」の生みの親。ブルサでの見習い生活の後、セタット・シマヴィの「ディケン(とげ)」雑誌によって、彼はトルコの漫画家として認められた。アクシャム紙、ジウムフリエツト紙、ユジュエル雑誌等に漫画を描いた。

## 写真

歴史の生き証人達

FRERES BRADERLER

フレレス兄弟

VIÇENKEVORK HOVSEP

ヴィチエン、ケヴォルク、ホヴセップ

写真マニアの三兄弟。当初彼等はペヤズットの写真館、ペラのスタジオで働いていたが、一八六三年に撮影したスルタン・アブドゥルアズィズの写真が認められ、その後、宮殿写真家として大きな称号を得ることとなった。スルタンの皇子達、貴族だけにとどまらず、一般庶民、漁師等幅広い階層の人々を題材とし、被

写体となる人間の顔だけではなく、心中身も映し出す写真家として、高い評価を受けた。

トルコが誇る

現代の天才写真家

ARA GÜLER

アラ・ギュレル(一九二八〜)

トルコにおける天才写真家として最も重要な人物。数々の歴史的事件を撮影した他、サルバドール・ダリ、ウィンストン・チャーチル、ベルトランド・ラッセル、エリザベス・テイラー等、数え切れない有名人を撮影し、彼らを被写体として永遠のポートレートにおさめた。

# イスラム音楽から ポップ音楽まで

## 音楽

タイムトンネル  
からの素敵な音

SAFYUUDIN URMEVI

サフューディン・

ウルメヴィ(一三世紀)

イスラム音楽の音階構造を定義付け、世界中に知らしめた音の科学者。彼の定義した物理的な音の要素、音符の綴り方は七年以上たったにもかわらず、今日でも同じ形式で使われている。



Safyuddin URMEVI



KANTEMIROĞLU

**KANTEMIROĞLU**

カンテミルオウル(一六七三―一七七七)  
オスマン帝国に送られたローマの王子。  
歴史家、音楽学者。長い年月暮らしたイ  
スタンブルで、音楽の技術的な解説につ  
いて筆を取り、その後の著書「オスマン  
帝国の歴史」にて、一七世紀から一八世  
紀の最も偉大な作家の一人としても認め  
られた。その作品は、現在も原本として  
評価されている。彼の住居跡は、金角湾  
沿いのフェネルに今も残っている。

**HAMAMIZADE ISMAIL DEDE EFENDI**

ハマミザデー・イスマイル  
デデ・エフエンディ  
(一七七八―一八四六)

一九世紀の最も優れた音楽家。トルコ  
音楽の最も偉大な作曲家の一人。セリム  
三世から、宮廷の三代のスルタンの側近  
として従事し、ほとんどの作品を支配者  
達の為に捧げた。

**TANBURİ CEMİL BEY**

タンブリー・ジェミルベイ

(一八七二―一九一六)

トルコ音楽の演奏方式に革命を起こし  
たタンブルの名演奏家。自らの純粋な方  
法により、何百年も前から続く演奏方式  
を、一新し、真新しいメロディーの世界  
を創造した。トルコ音楽の演奏方式は、  
現在、「ジェミルベイ以前」「ジェミルベ  
イ以後」という形で、分類されている。

**RAUF YEKTA BEY**

ラウフ・イエクタ・ベイ  
(一八七二―一九三五)

トルコの音楽構造を全世界に知らしめ  
た音楽家。彼は、中世の閉鎖的な学術形  
式によって、既に書かれていた音楽技術  
についての書物を、近代的な概念に添っ  
てまとめた。音楽史として、現代初作  
品である有名な「トルコ音楽」を一九二  
二年にパリでフランス語として出版した。

**SERİF MUHİDDİN TARGAN**

シエリフ・ムヒッディン・タルガン  
(一八九一―一九六七)

予言者ムハンメドの血族の出身であ  
る音楽家、かつ画家。当時まで伝統的な  
形で演奏されていたウドの演奏を、サズ  
の様式を摂取した形で行い、全世界に知  
らしめた。世界でも指折りの名演奏家と  
して認められている。

**トルコ音楽の  
代名詞**

**Münir Nurettin Selçuk**

ミニール・ヌレットイン・セルチュク  
(一八九九―一九八一)



Münir Nurettin SELÇUK

二世紀のトルコ音楽の最も有名な演  
奏家。彼は、何百年も前から続くソ口演  
奏の型を崩して、自らのスタイルを作り  
上げていった。立ったまま弾き語る形式  
のコンサートをタキシードを着て始めた  
第一任者。同時に偉大な作曲家でもある。

**SELAHATTİN PINAR**

セラハッティン・ピナル  
(一九一七―一九九六)

共和国樹立後発達した、ポピュラー・  
トルコ芸術音楽界の最も有名な作曲家。  
彼はアラブ音楽を真似ることも、奇抜な  
方向にずれることもなくトルコ独自のポ  
ップ音楽の基礎を築いた。作品の中では、  
行き場のない愛や孤独をテーマに、「都会  
の一人の男」としての感性を表現した。

**共和国の歌声**

**CEMAL RESİT REY**

ジェマル・レシット・レイ  
(一九一四―一九八五)

トルコ作曲家の中で最も数多くの作品  
を生み出した一人。多音西洋音楽を定着  
させる為に、教壇に立ち、オーケストラ  
指揮者としても活躍した。イスタンブル  
市が創設したコンサートサロンには、彼  
の名がつけられている。弟であるエクレ  
ム・レシットベイが台本を手がけた「華  
麗な人生」のオペレッタを作曲。その作  
品は何年もの間、満席で上演され、現在  
でも上演されている。

**AHMET ADNAN SAYGUN**

アフメット・アドナン・サイグン  
(一九一七―一九九一)

トルコ作曲家の中で、海外で最も良く  
知られている人物。大衆音楽のモチーフ  
と民謡を、多音節音楽の法則で調整した。  
「ユヌス・エムレ・オラトリオス」は、世  
界中の一流オーケストラによって、何度  
も演奏されている。

**アタトゥルクに  
最も愛された歌手**

**SAFİYE AYLA**

サフイェ・アイラ  
(一九一〇―一九九八)

トルコ建国の父アタトゥルクの最も好  
んだ歌手。共和国の歴史を歌声と共に生  
きた重要な歌手。トルコ音楽が二世紀  
に認めた最も優れた女性歌手の一人。

**FUJİSU**

ルビ・ス(一九二二―一九八五)



彼は、深いバスバトンの歌声で、伝統大衆民謡に、ヨーロッパ音楽技術の新しいスタイルを持ち込み、同時にアナトリアの民謡収集を行った。政治的な活動を行っていた為、何度も刑務所に入っでは出ることを繰り返し返した。

**誰もが認めるクラシックの歌姫**  
**LEYLA GENCER**  
 レイラ・ゲンジェル（一九三二〜）  
 国際レベルで成功した初のトルコ人ソプラノ歌手。一九五二年から、オペラ芸術の「神殿」でもある「スコラ座」で歌い始めた。現在、自らの名が付いた国際音楽コンテストにおいて、若手の歌手に有名なオペラへの道を示している。

**AYLA ERDUFAN**  
 アイラ・エルドゥファン（一九三六〜）  
 「バイオリンと音楽に捧げた人生」という、まさにその言葉どおりの人物である。その才能と演奏スタイルでバイオリン奏者にとって最も難しい作品を、国内外のコンサートで演奏し、音楽愛好家達の記憶の隅に名を刻み込んだ。

**GÜNER AYKAL**  
 ギュネル・アイカル（一九四二〜）  
 トルコ、そして世界的にも有名な、オーケストラ指揮者。

**SUNA KAN**  
 スナ・カン（一九三六〜）  
 「天才児」の誉高い、素晴らしいバイオリン奏者。五歳から現在までずっとバイオリンを弾き続けている。ピアニスト、ビレットと共に、フランスで教育を受けた。優れた技術の中での、デリケートな演奏スタイルには、多くのファンがいる。

**IDIL BIRET**  
 イディル・ビレット（一九四一〜）  
 トルコの二人の「天才児」のうちの一人。一九四八年、バイオリンリスト、スナ・カンとビレットは、政府によってフランスに送られた。ショパンの演奏により、世界のコンサートホールで求められる大演奏家となった。

**ORHAN GENÇEBAY**  
 オルハン・ゲンジェバイ  
 トルコの音楽界で最も世間の話題を呼んだといえる人物。トルコのアラバスク



Fazıl SAY

バイオリンを通して音楽への道に踏み込んだ。指揮、舞台でのパフォーマンスは、常にナンバーワンといわれている。

**AYDIN ESEN**  
 アイドウン・エセン（一九六二〜）  
 世界的レベルのトルコ人ジャズピアニスト。クラシック音楽の教育を受けた後、ジャズに方向転換した。ニューヨークで活動を続け、いくつかの作品は、ニューヨーク、フィルハーモニー・オーケストラでのレパートリーとされている。

**FAZIL SAY**  
 ファズル・サイ（一九七二〜）  
 現代のトルコの音楽界の力強い声の持ち主。一六歳の頃から絶え間なく作曲活動を続けており、彼の数々のCDは、音楽雑誌の表紙を飾っている。

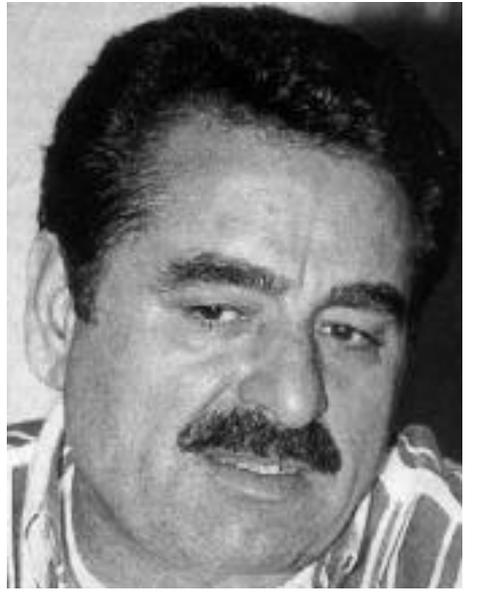
**BAŞİŞ MANÇO**  
 バルシシュ・マンチョ（一九四三〜一九九九）  
 日本好きの音楽家として有名な彼は、長年「七才から七七才まで」というテレビ番組で子供から大人まで幅広いトルコ人に人気があった。日本でコンサートを行ったこともあり、日本のテレビ界に進出することを望んでいたが、一九九九年に急死。



Ajda PEKKAN

音楽の代表者とされており、社会学の研究の課題としてとりあげられ、彼についての書物も書かれている。何はともあれ、アラバスク音楽が好きでトルコ人は、彼の歌を非常に愛している。

**スーパースターポップ界の歌姫**  
**AJDA PAKKAN**  
 アジダ・ペッカ  
 現在六歳と言われても、まず誰も信じないであろう美貌も人気の一つ。彼女は、少女期から現在まで常にトップの座を守り続け、常に時代の歌を歌い続けているまさにトルコのスーパースター。



İbrahim TATLISES

**İBRAHİM TATLİSES**  
イブラヒム・タトゥルセス(一九五丁)  
トルコアラベスク音楽界の帝王。工事現場で歌を歌っているところを見い出さ

れ、現在の地位にのしあがった。自ら「田舎者で無教養」であることをウリとし、アナトリアの人々に根強いファンを持つ。数々のヒット曲をとばしている一方、私生活もメディアの注目を浴びている。

**SEZEN AKSU**  
セゼン・アクス(一九五五～)  
トルコポップ音楽界の女王。「恋愛はセゼンの歌で歌われる」といわれるほど、セゼンの歌は、トルコ人の現実の愛の世界と、切ない感情を端的に表現している。飾らない、自由奔放な性格とハスキーな声でトルコ人に愛されている。音楽界の他の歌手にも多くの歌を書いており、彼女の作った歌は必ずヒットしている。

の「はげのハサンのディルクシユ劇場」で演じた。彼の時代が、トルコ興行演劇の黄金時代であったといえよう。

**MUHSİN ERTUĞRUL**  
ムフシン・エルトゥール  
(一九九丁一九七九)  
今日、トルコの演劇界、映画界の存在

について語るならば、彼の功績によるところが大きい。彼は、今日のイスタンブール都市劇場の元となった、オスマン帝国国立劇団の創設者で、現代トルコ演劇の先駆者である。また、トルコとしては初の音声入り、カラー映画の監督でもある。彼は、俳優、監督としてだけではなく、教育者、理論家としても人生の七十年を芸術に捧げた。

# スクリーンから消えないスター達

## 演劇・映画

永遠のアイドル  
カラギョズを生んだ作家

**SEYH KÜSTERİ**  
シェイフ・クシュテリ(二三世紀)

トルコの伝統影絵芝居の永遠のキャラクター、ハジバットとカラギョズの生みの親。ブルサのモスクの建築現場で働く

**İSMAIL DÜMBÜLLÜ**  
イスマイル・ドゥンブルル  
(一八九七～一九七三)

戯曲と即席芝居の伝統の中で育った最後の名人の一人である。演劇熱の為に学校を中退し、一六歳の時、コメディアン

## トルコ初の舞台女優

**AFFİE JALE**

アフイフェ・ジャール(一九四一)  
彼女を一言でたとえるなら「革命家」と言えよう。劇の舞台に立った初のイスラム教徒トルコ人女性。イスラム教徒の女性が舞台に立つことを禁じた決まりに反して、「甘い秘密」「オダルク」で役を演じた。最後の上演には警察が踏み込み、アフイフェは機械室から逃げ出した。本当の才能を死後に評価されるという、芸術家の宿命をたどり、バクルキョイ精神病院で人生の幕を閉じた。

**BEDİA MUVAHHİT**

バディア・ムヴァヒト  
(一九一丁一九九四)

カメラの前に立つた初のトルコ人女性  
の一人。オスマン帝国国立劇団のアフメット・レフエット・ムヴァヒトと結婚した後、映画・演劇の世界で活躍した。一九二三年に、ムフシン・エルトゥールの監督した「炎のシャツ」と言う名の映画でカメラの前に立ち、当時のセンセーションの一つとなった。

**MUAMMER KARACA**

ムアンメル・カラジャ  
(一九一六～一九七八)

一九五五年のトルコ演劇家。彼は鋭い知性とユーモアの力で、当時の政治問題を容赦なく批判した。タクシム・イステイクル通りには、自身の名のつけられた劇場もあり、今日も親しまれている。

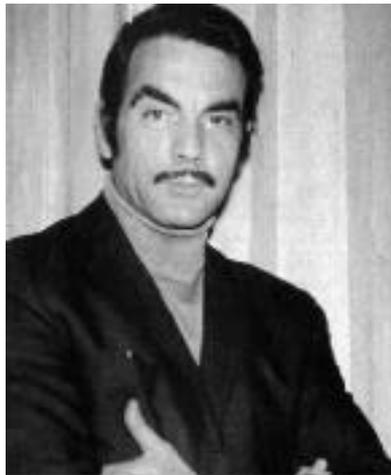
## トルコのグレッタガルボ

美貌の女優

**CAHİDE SONKU**

ジャヒデ・ソルク(一九一六～一九八一)  
トルコ映画界(Yeşil Çarşı)イェシル・チャム・トルコのハリウッド)が世に送り出した初のスター。

市立劇場でシエークスピア、ストリンゲベルグ、トルストイの作品などから始まった演劇人生を、カメラの前で続けることになった。「ブラック屋根の娘、アイセル」という映画でトップスターに躍り出る。グレッタガルボ、マレーネ・トリツヒにたとえられる神秘的な美しさで、波瀾万丈の私生活はいつも世間を騒がせた。しかし、ゼキ・ミュレンに名声をかませた映画「待ちこがれた歌」の



撮影後、人気は低迷し、次第に輝きをなくして引退していった。  
**O. LÜTFÜ AKAD**  
 リュトフイ・アカド（一九一六〜）  
 イェシル・チャムの伝説の人物の一人。トルコ映画に真の人間の表情を与えた初めての監督の一人である。アカドの行った偉業は、数え上げればきりが無い。「打て裏切り者を」「結婚式」等のヒット作は彼の生み出した最高傑作のうちのほんの一部である。

**トルコ演劇界の今日は、  
 彼らの貢献による**  
**YILDIZ KENTER**  
 コルドウズ・ケンテル（一九二八〜）  
 トルコ演劇の「プリマドンナ」。女優としてだけでなく、劇場監督としても数え切れない作品を残した。近年芸術的な半ヌード写真を公開するなど、意欲的な活動を続けている。  
**MEHİN ERKŞAN**  
 メティン・エルクサン（一九二九〜）



**AYHAN İŞİK**  
 アイハン ウシユク  
 （一九二九〜一九七九）  
 トルコ映画の一流俳優。スターマガジンの一九五一年に開かれたコンテストで優勝して以来映画界に突入。忘れられない連続ドラマ「小さな淑女」、掟の為に「イギリス人のケマル」「黒いハイダル」「黒い血」「組織」等の映画に出演した。



「神秘的な愛と純粋な情熱を表現した」として知られる「愛の時間」と言つ名の映画は、何としても彼そのものを表している。一九五二年の処女作「ASIN KESİĞİNİN İNSAN (暗い世界)」で映画界にデビューし、数々の素晴らしい作品を残した。

**芸術の太陽**  
**ZEKİ MÜREN ZEKİ MÜREN**  
 （一九三一〜一九九六）  
 詩人、作曲家、映画俳優、歌手として成功をおさめた芸術家。卓越した澄んだ歌声の持ち主であり、信じたがたいほど心優しい人物であった。彼について多く語る必要はない。彼は今なお、「永遠に沈まない芸術の太陽」として賛美されている。「君は今遠いところ…… / 心は別れの悲しみでいっぱい……」彼は彼の歌をもって唄はれている。



Zeki MÜREN

茶の間映画のロマンチックな俳優だったが、後にアクション映画には欠かせない俳優となった。ある時は「マルコチオウル役」、またある時は「カラオウラン役」、またある時は「カラムラット役」としてスクリーンで剣を振りかざした。

**トルコの  
 アクション・スター**  
**「黒い騎士」**  
**CÜNEYT ARKIN**  
 ジュネイト・アルクン  
 （一九三七〜）  
 一九六四年に撮影された、ハリト・レヒッキ監督の「故郷の鳥」と言つ名の映画でカメラと巡り合つて以来、彼は本職である医者に二度と戻らなかつた。当初はお

## トルコ演劇の代表作

おままごと / とても遠くて近すぎて (アダーレット・アアオウル)  
 Evcilik Oyunu, Çok Uzak Fazla Yakın / Adalet Ağaoğlu  
 終り / 氷が溶ける前に (ジェヴダット・フェフミ・バシクット)  
 Paydos, Buzlar Çözülmeden / Cevat Fehmi Başkut  
 バクダットの王妃、サルの食堂 (ギュンギョル・ディルメン)  
 Bağdat Hatun, Canlı Maymun Lokantası / Güngör Dilmen  
 目を閉じて義務を果たそう、ケシヤンのアリの伝説 (ハルドゥン・タネル)  
 Gözlerimi Kapatırım Vazifemi Yaparım, Keşanlı Ali Destanı / Haldun Taner  
 マフムトとイエズィダ、哀悼、鹿ののろい (ムラトハン・ムンガン)  
 Mahmut ile Yezida, Taziye, Geyikler Lanetler / Murathan Mungan  
 ろうそくが消えた (ムサイブザーデ・ジェラル)  
 Mum Söndü / Müsaipzade Celal  
 頭骸骨 (ナズム・ヒクメット)  
 Kafatası / Nazım Hikmet  
 ある死の社会的解剖 (オクタイ・アライジュ)  
 Bir Ölümün Toplumsal Anatomisi / Oktay Arayıcı  
 チリでの狩 (オルハン・アセナ)  
 Şilî' de Av / Orhan Asena  
 ジェンギズハンの自転車 (レフィッキ・エルドゥラン)  
 Cengizhan'ın Bisikleti / Refik Erduran  
 図解オスマン史、炉 (トゥルグット・オザックマン)  
 Resimli Osmanlı Tarihi, Ocak / Turgut Özakman

文献「メティン・アンドとオズデミル・ヌトゥクの選出による」

## 演劇界の女帝 トルコの清純派女優

(一九四五)

彼女は、中等教育を途中でやめて、映画界にデビューし、大成功を収めた。彼女は、一九六一年に映画「村で娘に恋をした」に初出演して以来、長い間トップスターの座を保ち続けた。

初期の作品では、田舎の人々に特徴的な村娘等のキャラクターを演じ、長期にわたって、テレビ番組「トゥルカン・シヨライの法律」のディレクターもつとめていた。清純派と呼ばれる理由は、彼女は長い女優人生に於いて、一度もキスシ

ーンを演じることなく、決してヌードにもならなかったこと。後に現代女性の象徴としてスクリーンに現れ、いまだにトルコ映画界の王座に座っているトルコ映画界の女帝的存在。



Turkan ŞORAY



Kemal SUNAL

## 「トルコの真実」 「シャールバン」

KEMAL SUNAL

ケマル・スナル(一九四四—)

一九七二年にエルデム・エルメズ監督の映画に出演したことを機に生涯に計八一本の映画に出演した。彼の演ずる「シャールバン・シリーズ」は、トルコの混乱時代に撮影され、社会現象をそのままスクリーンに写し出している。その混乱と貧困の中、まぬけで、とぼけているが

正義感が強く、悪知恵が働くシャールバンは市民の人気者であった。映画全盛期の後もテレビで毎晩再放送され、現在も、テレビでシャールバンに会えない日はない。今年七月、最新作の映画の撮影の為に乗った飛行機で心臓発作の為に急逝。

## 日本でも知られている

映画監督

YILMAZ GÜNEY ユルマズ・ギュネイ

(一九三七—一九八四)

トルコの映画界の「醜い王様」。抑圧の下で見下されながらも、ひねくれずに、不平等に一人で立ち向かっていった純真なアナトリアの人。無数の映画で、監督、出演、脚本家として活躍したユルマズ・ギュネイは、まれに見る才能を持つ映画監督である。一九八二年にコスタ・ガブラスの映画「失跡」と共にゴールデン・バルミエ賞を受賞した「路」(YOL)は、世界映画史に名を残す名作となった。

## 【トルコ映画大傑作10本】 En İyi 10 Türk Filmi

「群れ」ゼキ・オクテン  
 Sürü / Zeki Ökten  
 「希望」ユルマズ・ギュネイ  
 Umut / Yılmaz Güney  
 「ふるさとのホテル」オメル・カブル  
 Anayut Otel / Ömer Kavur  
 「路」ユルマズ・ギュネイ  
 Yol / Yılmaz Güney  
 「水のない夏」メティン・エルクサン  
 Susuz Yaz / Metin Erksan  
 「ムフシンベイ」ヤウス・トゥルグル  
 Muhsin Bey / Yavuz Turgul  
 「ハッカリの季節」エルデン・クラル  
 Hakkari' de Bir mevsim / Erden Kiral  
 「風を打たせないで」トゥンチ・バシャラン  
 Uçurtmayı Vurmasınlar / Tunç Başaran  
 「嫁」リュトフィ・アカド  
 Gelin / Lütfi Akad  
 「その名はヴァスフィエ」アキフ・ユルマズ  
 Adı Vasfiye / Atif Yılmaz

文献/アンカラ・フィルム・フェスティバル委員会の行った44人の映画評論家の評価した「トルコ映画百選」による